

③ ヨコハマ都市デザインフォーラム

■国吉直行

1 横浜市の都市づくりと都市デザインフォーラム

ヨコハマ都市デザインフォーラムは、横浜市の長年の都市づくりの実績を活かした、横浜独自の国際会議といえる。

① 横浜市の都市づくり

一九六〇年代後期の横浜市は、郊外部における急激な宅地開発と人口の急増、都心部地域における戦後の復興の遅れなど課題を多く抱えていた。こうした中で、一九七〇年代以降、公共施設施設の整った、バランスある都市環境を育て、また、人口規模に見合った活力ある都心部の育成を図り、「都市としての自立」をはかるための総合的な都市づくりに主体的に取り組むことになった。

② 1都市づくりの対外的評価

その内容は、国や県、公団などの様々な公的事業を主体的に組み合わせて、新しい骨格づくりを進めるプロジェクトの推進、緑地の保存や適切な土地利用などを効果的に誘導するコントロール、さらに横浜らしい都市空間の魅力創造する都市デザインからなっている総合的な取り組みであり、結果の出始めた

七〇年代後半から、マスコミをはじめ他都市や国からも注目されるようになった。

2 1都市づくりを通じた対外的活動

① 国連と共同で国際会議を開催

一九八二年、国連アジア太平洋経済社会委員会、国連人間居住センター、横浜市の三者の主催により、横浜市において「第一回国連アジア太平洋都市会議（Y L A P）」が開催され、横浜市を含む一六の都市が参加し、七日間にわたり都市づくりの議論を行った。

また、この時期、日本政府の対外的協力活動の一環として、国際協力事業団を通じて行っている都市づくりに関する専門家の派遣について、横浜市の技術職員が要請を受け、マレーシアのペナン市や、エジプト政府などへ専門家として派遣されるようになった。

② 1シティネットの設立

Y L A Pに引き続き、一九八七年に「第二回国連アジア太平洋都市会議（N L A P）」が名古屋で開催されたが、この会議で、アジア太平洋地域の都市問題の解決・改善に向け、都市・N G Oの相互理解を深め、ネットワークをいかした協力をおこなう組織として

「アジア太平洋都市間協力ネットワーク（シティネット）」が決議され設立した。

設立後のシティネットは、横浜市に事務局を構え、横浜市が財政面からの協力をを行い、セミナーやワークショップの実施など幅広い活動を続けてきた。現在、百を超える都市及び団体が会員となっており、また、横浜市長が会長として組織をリードしている。

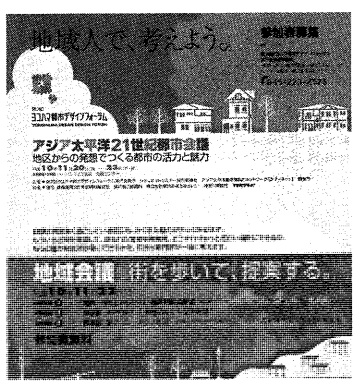
なお、設立当初は、都市計画局が担当局であったが、現在は総務局へ移管されている。

③ 1ペナン市、上海市との技術交流

Y L A Pを縁に交流を深めた横浜市とペナン市は、一九八六年に「技術交流に関する共同宣言」を結び、毎年三カ月間相互に技術職員を派遣し、都市づくりに関する技術交流をはかることとなった。一九八六年から三年間は、都市デザインがテーマとなった。

横浜市から派遣された職員は、ペナン市の中心部ジョージタウン「アーバンデザインプラン」および歩行者空間整備計画を提案した。一九八八年三月に提案されたキャンベルストリート・ショッピングプロムナードは、約十年を経て、近年マレーシア政府の補助事業として採択され、一九九七年から事業実施されている。ペナン市との技術交流は、その後、

- 1 横浜市の都市づくりと都市デザインフォーラム
- 2 1都市づくりを通じた対外的活動
- 3 1横浜独自の継続的な発信をめざす
- 4 1第一回ヨコハマ都市デザインフォーラム
- 5 1第二回ヨコハマ都市デザインフォーラム



■地域会議ポスター



■第2回フォーラム総合ポスター

テーマを変え、九年間にわたって続けられた。
また、同時期、上海市との技術交流も始まり、派遣された横浜市チームは、これまで、上海市浦東新開発地の計画づくりなどへ様々な提案を行っている。

④ 横浜市としての二つの宣言

こうした中、横浜市長は、一九八八年に「横浜デザイン都市宣言」を、一九八九年には「都市デザイン交流宣言」を行っている。

前者は、横浜が幅広いソフト・ハードのデザインの開拓と創出の取り組みにより、都市文化の創造を図ることを宣言したものであり、後者はこういった取り組みをキーワードに様々な都市づくり面からの国際交流を進めることを宣言したものであった。

⑤ バルセロナ市との共同事業・BAY90
バルセロナ市は、人口約百八十万、首都マドリッドに次ぐ、スペイン第二の都市であり、スペイン最大の港湾都市である。

横浜市とバルセロナ市は、一九九〇年に共同コミュニケーションを結び、「バルセロナ&ヨコハマシティクリエーション(BAY90)」という都市文化の展示会を開催し、これを機に交流を持つことになった。バルセロナ市は、芸術文化・産業デザイン・都市デザインの三分野から総合的都市づくりを進めている都市であり、横浜市にとって参考にする点の多い都市と考えられた。また、バルセロナ市にとっては、一九九二年開催のオリンピックの前哨戦としての「文化オリムピック」としての意味合いがあった。この共同事業は、横浜

博覧会の会場施設の一部を再利用して、一九九〇年四月から七月までの間開催された。

BAY90開催中、海外国内の専門家三十二人が集まり、八つのテーマによる都市の創造に関する国際シンポジウム「国際都市創造会議」が連続八回にわたり開催された。

3 横浜独自の継続的な発信をめざす

一九九一年に、国際コンベンション都市を目標とする横浜の総合的拠点としてパシフィコ横浜第一期が完成した。

パシフィコ横浜への様々な国際機関の誘致とともに、ここを舞台に開催する様々な国際会議を誘致する活動が本格化して行くことになる。しかし、一方で、幕張メッセをはじめ、多くの都市が大規模なコンベンション施設を有している状況の中で、横浜市としての特徴を持つ必要もあり、そのために国際コンベンションを通じた横浜らしい独自の活動も必要ではないかとの議論がなされるようになる。

こういった議論の中で、これまでの横浜市の都市づくりの対外的評価や、都市づくりを通じた様々な国際交流の実績を踏まえた、横浜らしい発信力のある国際会議として開催されることになったのが「ヨコハマ都市デザインフォーラム」である。

4 第一回ヨコハマ都市デザインフォーラム

① 開催の意義―横浜からの発信
・都市づくり、まちづくりを通じて、横浜独

自の対外的発信と国際交流を推進する舞台とする。

・交流や議論を通じて得た知識や提案を実際の市の取り組みに活かす。

・専門家だけの会議とせず、市民にも多く参加してもらい、市民活動に役立ててもらおう。

フォーラムは、横浜らしい発信性のある会議として、横浜市を対外的にアピールすることに効果があり、また海外からの参加者を期待できる内容、あわせて市行政や市民活動にも役立つといった開催意義を持つ会議と位置づけられた。

② 全て市自らの企画による構成

他の国際会議が、実施主体として団体や学会など既存の組織があり、団体、学会の会員の参加する会議となっていることに対し、本フォーラムは、実施主体、開催内容及び参加者の全てを市としてのニーズに沿って自前で作る点が特徴で、企画が大変である。

本フォーラムは、横浜市が中心となり実行委員会を設立し、実行委員会として協賛金を集め、内容を企画し、有料の会議参加者を集めるというシステムを持つ会議である。

内容としては、国際会議だけでなく様々な五つの側面の事業から構成し、準備期間約二年開催期間一年をかけた膨大なものであった。

③ 第一回フォーラム内容

⑦ 推進研究―国際会議の基礎的資料として海外主要都市の近年の取り組みの調査を行い、都市デザインレポートとしてまとめた。
⑧ 提案型事業―都市デザイン提案国際コンペ、都心臨海部の将来構想(横浜アーバンリン



■市長セッション



■分科会(Cセッション)



■フリーセッション市民まちづくり会議

グ)など専門家からの提案を求めた。
⑦地域展開型事業―市内各地域の市民の地域研究や提案づくりの活動を支援した。

・女性の目で見えた瀬谷区のまちづくり
・南区まちづくりワークショップ など
⑧発表展示―国際会議開催中⑦⑧⑨及び企業提案の展示を行った。

⑨国際会議―一九九二年三月(四日間)

テーマ「都市のクオリティ」

四つの分科会や市民フォーラムで構成

登録者数八七四名(海外十九カ国百七名)

四日間のべ参加者数約三千名

④―第一回フォーラムの成果

第一回フォーラムは、都市デザインに関するアジアで最初の国際会議となり、予想以上に多くの方がアジア各国から参加したのは驚きであった。また、アジア各都市がこういった視点からの国際交流を望んでいる状況を把握出来た点で成果が大きかった。

フォーラム以降、都市デザインを通じての各国との交流がさらに活発になっている。

また、シンガポール、香港、台北など各都市でも都市デザインに関する国際会議が度々開催されるようになったことも特筆できる。

横浜では、フォーラムを機会に、住宅地などにおける市民のまちづくり学習や提案づくりが活発になってきた。まちづくりにおける市民と行政のパートナーシップも重要な取り組みになってきた。

5―第二回ヨコハマ都市デザインフォーラム

ヨコハマ都市デザインフォーラムは、横浜らしい発信性のある会議として、四、五年に一回継続的に開催し続けることが望ましいとされたが、財政状況の逼迫している中で第二回の開催のめどを立てることは非常に困難であった。出来るだけ手づくりの企画とするなどにより予算規模を工夫し、ようやく六年を経て今回(一九九八年)十一月二十―二十三日に、第二回の開催となった。なお、今回は準備期間は予算決定後約六カ月だけであった。

①―第二回フォーラムの開催背景と開催意義

第二回フォーラムは、第一回が、いわゆるバブルの最中に開催されたのと対比的な経済状況の中で、成長のスピードの変化や、省資源への対応、都市としての成熟期を迎えた課題への対応、第一回以来市民のまちづくりへの関心がさらに深みを増していることへの対応など、次代へ向けた新しい取り組み課題を背景としての開催となった。

また、今回は、横浜市だけでなく、シテイネットにも共同の開催主体となってもらい、シテイネット会員都市などアジア太平洋地域を中心に海外参加者を募ることとなった。

②―第二回フォーラムの特徴

―地域会議と多くの市民の参加

今回は、時代背景や横浜市の今後のまちづくりの課題を考慮し会議名称やテーマを以下のようにした。

・会議名称(サブタイトル)
アジア太平洋二一世紀都市会議
・テーマ

二十一世紀に向けた都市活力と魅力的空間の形成―都市の持続的発展と地区からの発想開催内容については、事業予算や準備期間を考慮し今回は国際会議だけとした。

ただし、工夫点として、四日間の期間中、三日間はパシフィコ会場としたが、一日だけ、市内三地区、隣接都市二地区を会場とし、それぞれの地域を歩き、地域で議論する地域会議の開催を取り入れた。

こうした構成により、テーマの「都市の持続的発展と地区からの発想」にそって、まず二日間海外事例を交えて議論し、三日目に具体的な地区を題材に議論し、四日目にその結果を持ちよって総括するという変化に富んだ、しかも一貫性のあるプログラムとなった。また、会議への参加登録料を安くするほか、無料プログラムも用意し、多くの市民や学生の方々にも参加しやすい会議とした。

③―第二回フォーラムの会議プログラム

・第一日

基調講演、都市報告・市長セッション

・第二日―三つの分科会

A 成熟社会の大都市像と都市づくりの戦略

B 地区からの発想で進めるまちづくり

C 歴史を活かしたまちづくりと都市観光

・第二日夜―三つのフリーセッション

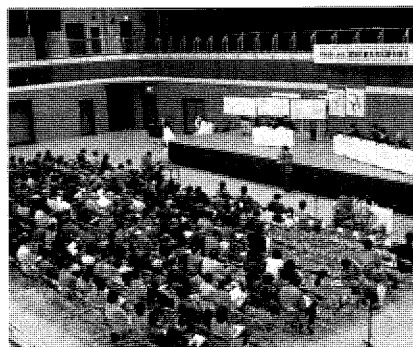
・イ市民まちづくり会議

・ロ自治体まちづくり会議

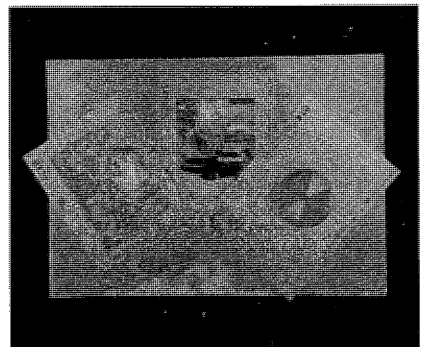
・ハ都市デザイン専門家会議



■都筑区地域会議 (武蔵工業大学)



■金沢区地域会議 (横浜国立大学)



■都心部地域会議 100の提案カード

表 海外参加者国籍一覧

第2回フォーラム海外参加者国籍
韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア、インド、スリランカ、ネパール、シリア、オーストラリア、フィジー、アメリカ、ロシア、フランス、オランダ、イギリス、スコットランド、フィンランド、ドイツ、スペイン、ウガンダ

・ 第三日ー地域会議
イ都心部と関内
口金沢区
八都筑区（港北ニュータウン地区）
二横須賀市（猿島）
ホ鎌倉市（古都の歴史空間）
・ 第四日ー閉会セッション・総括会議

④ー参加者数
・ 登録参加者数 千五百八十七人
（うち海外は二十二カ国六十二人）
・ 述べ参加者数 約三千人
経済状況の悪い中、アジア各都市から予想を越える参加者があつたのは驚きであつた。
また、登録参加者（有料）以外に、分科会の一部やフリーセッション、地域会議などの無料参加プログラムへ多くの参加者があつた。

⑤ー特徴が出た地域会議
地域会議は各区役所と市民の主体的取り組みにより市内の三地区、及び、各都市主催で横須賀、鎌倉両市で開催されたが、見学と会議のテーマ、会議方式など全てが、それぞれの地区の個性の反映されたものとなつた。
例えば、関内会議では、歴史ある街の活性化がテーマとなり、参加した商業市民と海外専門家、国内専門家が百の提案カードをもとにレベルの高い議論を行つた。
金沢会議では、三グループに別れ、「生活と産業」、「歴史と緑」、「川と海」の三つの地域を見学し、横浜市大体育館で三つのグループ毎のワークショップを行い、最後に全体としての「地域の新たな文脈を培う」議論を行うというプロセスを持った。

⑥ー市民、ボランティア、専門家、職員、そして企業の協力
地域会議の企画は、区役所及び都市計画局を軸にして、四カ月以上前から各地域で専門家、市民、学生ボランティア、市職員の協力で進めて来た。徹夜に近い議論や作業も多かった。各地域では国際会議に向けた提案づくりなどを行うプレ会議も開催されている。
また、難しい経済状況の中で、いくつかの企業に事業費や製品の協賛を受け、事業をサポートしていただいたことも有り難かつた。

⑦ー第二回の評価
市民と共働して築く地域の特性を活かしたまちづくりは、今後の基調となつて行くことを予感させられたフォーラムであつた。
今回の特徴であつた地域会議は、海外からの参加者にも市民にも、身近な課題を具体的に議論し分かりやすかつたと好評であつた。
また、フリーセッションの企画も概ね成功と言えそうである。
プレゼンテーションの方法も進んで来ている。市長セッションで、バンコクの女性局長がパワーポイントを用い、パソコンを操作しながらビジュアルプレゼンテーションを行つたが、同じプレゼンテーションを行うパネリストが続出した。事務局でも、企画局の方にお願ひし、三日間の結果をパワーポイントで編集してもらひ総括会議に披露し、大好評であつた。
こういった時代を反映したテーマ設定と、様々な新しい工夫が、会議を新鮮で楽しいものにしたと考える。
次回開催に向けて、企業からの発言への期待などの提案もアンケートで数多く受けた。参加者から、議論の結果を踏まえた市の実践活動が期待されており、その実践が次回に向けた新たな発信となると考えている。
〈都市計画局都市デザイン室担当課長・主任調査員〉



■総括セッション・ビジュアルプレゼンテーション

■横須賀会議（猿島の議論）



■鎌倉会議（鶴岡八幡宮）